

「牧草と園芸」誌の編集見直しについて

編集事務局

はしがき

「牧草と園芸」誌は、昭和28年に創刊し、50年の長きにわたり、主として酪農畜産の世界で、生産や技術普及にかかわる方々のご愛読をいただき、今日に至っております。

「牧草と園芸」誌の今後について、研究や技術にかかわる者、更には、経営陣も加わり、その内容とありかたについて、時間をかけて検討を重ねてまいりました。ここでは、その見直しについての概要をお伝えし、ご理解とご協力を賜りたく、お知らせと、お願いを申し上げる次第です。

変更のポイント

1) 発行回数について

⇒従来の酪農畜産向けに磨きをかけ、**奇数月の(隔月)発行**とします。

従来、その読者・配布先は、酪農・畜産関係が圧倒的な多数を占めておりました。ご存知のように、園芸にかかわる記事も掲載してまいっておりましたが、読者層との対応が、かならずしも充分ではなく、効果性が指摘されておりました。

従って、⇒偶数月には年数回、「園芸や野菜」、更には「植生や緑化」などの特集号を組み、対応した読者・配布先の方々に、より密着した内容を心がけ、名簿も漸次整備し、商品さらには関連技術について、密度の高い、選りすぐった情報をお届けして参りたいと思います。

これらの特集号を具体化する上で、対象となるお客様への送付名簿の作成・整備が急がれるところであり、夏～秋の発行を目指して行きたいと思っております。

後ほどのアンケートによる意向調査につきましても、今後の参考とさせていただきたく、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

2) サイズ、事務局が変わりました

従来は、B5版でしたが、読みやすさを配慮し、**A4版**に変更致しました。活字も大きくなり、図表等も見やすくなったものと思います。

事務局は、従来本社で担ってまいりましたが、「牧草と園芸」誌は、技術誌としての性格も強く、**北海道研究農場内**にその窓口を置くことと致しました。その編集執筆に際しては、試験研究機関の先生、大学等の諸先生にも大変お世話になっており、今後も強い連携とご助力をいただきながら、紙面の充実を図って行きたいと思っております。

アンケート調査の実施とお願い

国立研究機関が独立行政法人化し、試験機関の統合、研究室の名称も一部変更されております。また、農酪協におかれても、その統廃合が進んでおり、注意は致しておりますが、失礼がなきにしもあらずと考え、この機会に、下記を中心としたアンケートを実施させていただきたく、添付の用紙にご記入いただき、FAX返信いただけましたら幸いです。

記

- I 「牧草と園芸」誌を 今後も送って欲しい / 不要です
【特集号】も送って欲しい / 不要です
- II 送付先の住所に間違いがございましたら、正しい住所をご記入願います。
送付先の団体、組織名に間違いがございましたら、正しい名称をご記入願います。
宛名の肩書き、ご氏名等、間違いがございませんか？
- III その他、お気づきの点、リクエスト等をお教願います。

(ご協力ありがとうございました。)